

からしま 韓島(仁摩町宅野)

宅野港の沖合に浮かぶ3つの無人島は、からしま 韓島・むぎしま 麦島(無木島)・おおしま 逢島と呼ばれています。中でもいちばん大きな韓島には、本土側の平場に休憩所があり、中腹には韓島神社があります。

毎年、年に1回海水浴シーズンや韓島祭前の7月上旬に、宅野からしま会(会長高橋和也さん)、地元漁師のみなさんや有志の方々が島に渡り、草刈りやゴミ拾いなどの清掃活動を実施されています。

また、韓島はさまざまな伝承を持つ島でもあり、その一部をご紹介します。



清掃活動の様子

ふるさととは今

韓島の古伝承

- ・素戔鳴尊すさのおのみことが新羅より、五十猛命いたけるのみことや、大屋津姫命おおや つひめのみこと、抓津姫命つまづ ひめのみことを連れて韓島に立ち寄られ、韓島の洞窟で濡れた衣を着替えられた後に、五十猛の大浦港に上陸されたと言われている。
- ・大国主命おおくにぬしのみことが高麗からの帰途、韓島にお着きになり、大国の松こうらいの下で雨宿りをされた。(大国地区八千矛山大國主神社の由来)以後、韓の国へ渡るときの日本側の発着地となった処でもある。
- ・室町時代、銀山発見の父神屋寿貞かみや しゅていが韓島沖を航行中、南の方角に光るものを見たのが石見銀山を発見するきっかけになった。

(参考) 「歩いてみませんか宅野散策ガイド」
「仁摩町誌」

韓島近く(宅野港)までの行き方

石見交通バス(大田・江津線)の「宅野港前」バス停。JR仁万駅から車で5分。
詳しくは、宅野まちづくりセンター(☎0854-88-9511)まで

表紙 あの頃～久手港のめのは干しの風景(昭和35年・久手町)～

表紙は昭和35年頃の久手港で、めのは(ワカメ)干しの作業をしている写真です。この写真は、久手町寺前自治会の渡邊好子よしこさん(78歳)に提供していただきました。また、久手町仕明自治会の森井晃一あきらさん(81歳)に当時の話を聞かせていただきました。久手港の西側は、現在では護岸と道路になっていますが、当時は砂浜が広がっていました。

めのは刈りは4月中旬から5月下旬まで行われ、近海で刈り取られためのはは、真水につけて塩分を落とし、砂浜に並べた簀す(竹やあし等を粗く編んだもの)で半日天日乾燥させました。乾燥しためのはは、適当な大きさに切り揃えられて、久手港の市場に出荷されました。

めのは干しは、当時の久手町の春の風物詩であり、めのはは初夏の食べ物として家庭の食卓を飾りました。

現在、久手港ではめのは干しの光景を見ることはできませんが、毎年8月4日に港まつりが開催され、花火の打ち上げや多くの屋台や人でにぎわいを見せています。光景は違っても、今も活気を見せています。



港まつりでの久手小学校鼓笛隊の演奏

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行／大田市役所総務部まちづくり推進課 TEL: 0854-82-1600 FAX: 0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-matidukuri@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

「おおだ」の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索